

企業名： 富士通ゼネラル

レポート名： 富士通ゼネラルグループ 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

富士通ゼネラルは、統合報告書の中で価値創造として、サステナブル経営を推進し新たな価値の創造によって快適で安心・安全な社会を実現することで、安らぎに満ちた今日にない明日を届ける、としている。持続可能な成長は未来の地球と人間の生活にとって必要不可欠であるので、このようなプロセスで会社が目指す在り方を定義することは理解できる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

この会社の事業は、主に空調機事業と情報通信・電子デバイス事業に分けることができる。

空調機事業では、国内だけでなく海外でも製品の販売を行っている。アメリカでは現地の会社と協業し、またニューヨーク州と共同で実証実験を行うなど、海外においても影響力のある活動を行っていることがわかる。製品の特長としては、独自の除菌技術を搭載した空調機や、コンパクトさやデザイン性が売りとなっていることがわかる。昨今の気温上昇やコロナ禍における在宅需要の高まりによって、空調機市場全体が成長していることは理解できるが、自社製品の強み、他社製品との差について理解できるとより良いのではないかと感じた。

情報通信事業では、消防・防災システムでの産学連携による価値向上、民需システムにおけるモバイル web サービスの提供拡充など、安心・安全への貢献や民間企業の業務委託ニーズに応えていることがわかる。電子デバイス事業では、産業用ロボット向けの電子部品や小型カメラなど将来拡大すると予想されるニーズに合わせて事業を展開していることがわかる。中国の海外営業拠点では現地企業に負けないうモノづくりを進めていくという趣旨の記述があるが、他社と比較しての優位性は読み取れなかった。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

空調機事業においては、省エネ性の向上や AI・IoT の活用、新たな商品開発で商品力の強化を目指していることがわかり、空調機部門の成長が見込まれる。また、川崎本社内の「イノベーション・コミュニケーションセンター」や、タイ・中国での設備・人

員補強、積極的な外部リソース活用によって、開発・生産体制の強化を目指していることがわかる。国内外に市場を持つことは大きな優位性であり、持続的に成長可能だと思われる。今後の空調機事業では競争激化が予想されるため、優位性を維持することは存続にとって重要な要素となる。

情報通信・電子デバイス事業においても、昨今の人手不足による業務委託ニーズや、ロボット事業の拡大において、提供する製品やサービスが持続的な需要のもとにあることが予想される。ただし、競合企業の参入や世界的半導体不足による部品調達の困難など、不安要因は多くあるため、他社と比べての優位性をさらに得る必要があると感じる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

富士通ゼネラルの社会に対する取り組みとして、「自ら新しいことに挑戦する人材の育成」、「多様性を生かして社員が柔軟に働ける職場づくり」、「健康意識を高め"Good Life"を目指した職場づくり」が挙げられている。

「自ら新しいことに挑戦する人材の育成」については、各階層が担う役割を明確化し、成長のため一人一人に挑戦の機会を提供し、自身の志やビジョンを持つ意識の醸成を進めていく、などと書かれている。しかし、具体的な活動やそれらの成果に関しては読み取ることができず、実際にどのような変化があり社員の成長やキャリア形成に結びついているのか、ということをより詳しく知ることができるとより良いと感じた。

「多様性を生かして社員が柔軟に働ける職場づくり」に関して、外国人採用や女性活躍推進、障がい者雇用といった取り組みが挙げられている。外国人採用に関しては具体的な数値の掲載はなく、女性の活躍についても数値目標があるのみで現状の女性活躍の在り方や成果といったものが載っていない。数値目標を掲げ、多様な職場づくりを目指すことはよいが、目標のみで具体的な成果や数値がなければ、評価しづらいと感じる。

「健康意識を高め"Good Life"を目指した職場づくり」に関して、取引先に品質や性能といった項目以外に労働環境や人権といった項目をプラスした CSR 調達方針・指針を共有し、実践をお願いしていることがわかる。また、紛争を助長し、強制労働や人権侵害と関連しているリスクが高い鉱物は製品や部品から排除する方針を取っており、よりよい社会への取り組みとして評価できる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体を見て、現状の財務状況や環境・社会への取り組みについて理解しやすい報告書であると感じた。自社の優位性や、取り組みによって生まれた具体的な成果についてより詳しく知ることができると、さらに良くなるのではないかと思う。